

Peshawar-kai

ペシャワール会報

ペシャワール会事務局
〒810-0003 福岡市中央区春吉
1-16-8 VEGA 天神南601号
TEL 092 (731) 2372
FAX 092 (731) 2373

No.142

2019年12月4日

〈URL〉 <http://www.peshawar-pms.com> 〈E-mail〉 peshawar@kkh.biglobe.ne.jp



〔写真〕 用水路工事現場での朝食

凄まじい温暖化の影響

中村 哲

中村哲医師、ガニ大統領より「アフガニスタン・イスラム共和国市民証」授与される

中村 哲/ジア ウルラフマン/村上 優/モハマッド イスマイル シンワリ

PMS職員・アフガン政府関係者が来日研修

徳永哲也/樋口 孝/寺田俊博/アジュマル スタニクザイ

水のよもやま話(5) 柳の話

中村 哲

追悼 緒方貞子さんの思い出

中村 哲

【カラー特集】 中村医師、ガニ大統領よりアフガン市民証を授与!

【カラー連載】 マルワリード用水路に行く④ E地区(2350~3766m地点)

【カラー特集】 9月8~15日、アフガン政府省庁・PMSより11名が来日!

ペシャワール会は、1983年9月、中村哲医師のパキスタンでの医療活動を支援する目的で結成されました。彼の活動を支援するとともに、アジアの人々への理解を深めていきたいと願っています。



凄まじい温暖化の影響

——とまれ、この仕事が新たな世界に通ずることを祈り、
来たる年も力を尽くしたい

PMS（平和医療団・日本）総院長／ペシャワール会現地代表

中村 哲

全ての力を川周りへ

川とにらめっこしているうちに寒くなり、河川工事の季節が再び巡ってきました。みなさん、お元気でしょうか。

今冬の川の工事は、カマ第一堰^{せき}右岸の補強工事に加え、マルワリード堰の抜本的な改修があります。既に七月から準備し、川の水が下がる十月下旬、「全ての力を川周りへ」と、一気に取りかかりました。カマ第一堰は最新の堰でしたが、対岸に予期せぬ浸蝕が発生したため、急遽決定したものです。増水期の三月までに、全ての必要な工事を速やかに終えねばなりません。

最大の標的はマルワリード堰で、堰だけでなく用水路の本格的な改修が予定されています。これは建設後十六年を経て、ある程

度の補強が必要になった部分があり、昨年の鉄砲水被害からの復旧もあります。また、何よりも今後の維持の上で、私たちが範を垂れておく必要があります。

人々の生活の安全を

マルワリード用水路は山腹を這うように作られています。鉄砲水や土石流が通る谷をいくつも通過します。谷といっても、四千メートル級の山から流れてくる洪水や土石が、信じられないような勢いで下ってきます。日常的に通過する所はある程度対策が立てられますが、最近の降雨は予測が不可能で、大丈夫と思っていた箇所が鉄砲水で決壊したり、通過水量が予想をはるかに超えたりで、その都度マメに補修しながら守る以外にないのです。



鉄砲水で塞がれた国道と、水位が下がるのを待つ人々(2007年4月1日)

普通の国なら行政が責任をもって保全するのでしようが、まだまだ途上のようです。ここでは安全とはテロ対策のことばかりで、人々の生活の安全が考慮されてきたとは思えません。今は地元民と協力しながら、将来の河川行政の確立を待つ他はないようです。

猛烈な勢いの沙漠化に抗して、今ほとんかくこの希望を守り育てるべきだと考えています。

「緑の大地計画」は更に拡大の勢いで、来



シェイクワ郡日曜バザールの現在。牛が人の中に紛れて見えないほど活気に満ちあふれている(2019年10月6日)

年からはバルカシコート堰、ゴレーク堰が着手されます。

バザールが立ち並んで大混雑

このところ、作業現場までの道路が信じがたい大混雑で、いつの間にか延々とバザールが立ち並び、それが常態となっていました。以前には考えられないことです。特にジャララバードからカマ郡に至る約二〇km区間がひどい状態です。

考えれば当然で、農地が復活した私たち

の作業地(ジャララバードの北部三郡)が州内で最も住みやすい場所になっているうえ、これまで最大の避難先であったパキスタンが難民の越境を厳しく取り締まり、もう逃げていく場所がないからです(パキスタン自身が何年も不作と不況に喘いでいます)。

干ばつは確実に進行

水の仕事を始めてから十九年、干ばつは動揺しながら確実に進行しているように思われます。かつて豊かな農村地帯で聞こえたソルフロッド郡は沙漠化で見る影もなく、スピングガル山麓(麓)は僅かにドウルンタダムからの用水路が細々と潤すにとどまっています。川沿いも気候変化で濁水と洪水が併存し、年々荒れていきます。温暖化の影響はここアフガニスタンでも凄まじく、急速に国土を破壊しています。

それでも依然として、「テロとの戦い」と拳を振り上げ、「経済力さえつけば」と札束が舞う世界は、沙漠以上に危険で面妖なものに映ります。こうして温暖化も進み、世界がゴミの山になり、人の心も荒れていくのでしょうか。一つの時代が終わりました。

とまれ、この仕事が新たな世界に通ずることを祈り、真っ白に砕け散るクナル河の、はつらつたる清流を胸に、来たる年も

力を尽くしたいと思います。
良いクリスマスとお正月をお迎えください。
二〇一九年十二月 ジャララバードにて



中村 哲：九州大学医学部卒。専門は神経内科(現地では内科・外科もこなす)。国内の病院勤務を経て一九八

四年パキスタンのカイバル・パクトゥンクワ州(旧北西辺境州)の州都ペシャワールに赴任。ハンセン病コントロール計画を柱にした貧困層の診療に携る。八六年からはアフガン難民のための事業を設立し、アフガン北東山岳部に三つの診療所を開設。九八年には基地病院PMSをペシャワールに建設。また病院・診療所で患者を待つだけでなく、パキスタン北部山岳地帯の診療所を拠点に巡回診療も開始。二〇〇〇年以降は、アフガニスタンを襲った大干ばつ対策のための水源確保(井戸掘り、カレーズの復旧。作業地一六〇〇カ所以上)事業を実践。さらに〇二年春からアフガン東部山村での長期復興計画「緑の大地計画」を開始。〇三年三月からは灌漑用水路建設に着手し、一〇年三月全長約二五キロが開通。ガラエヌール診療所の年間診療数約四七、〇〇〇人(二〇一八年度)。

中村哲医師、ガニ大統領より

「アフガニスタン・イスラム共和国市民証」授与される

——市民証の取得によって、活動はさらに現地と一体に

「これがアフガニスタン復興のカギ」

——事業への深い理解を感じた授与式

PMS総院長／ベシヤワール会現地代表

中村 哲

十月七日午後五時三〇分から三〇分間、市民証の受け渡し式が大統領官邸で行われました。日本大使館から高橋副大使以下二名、アフガン政府側から報道官、直属の秘書数名が列席されました。質素な集まりで、報道関係者は招かれませんでした。

式は終始和やかな雰囲気で行われました。印象的だったのは大統領の喜び方で、初めから長い抱擁の挨拶で始まり、よほど嬉しかったのでしよう、最大の英雄、最も勇敢な男、最大の貢献、などと私たちの仕事に対する激賞の言葉が続きました。四月

に市民証の発行を指示してから、選挙や内外の政治的变化で忙しく、やっと願いがかなったという感じでした。

以前経済大臣をしていた頃、水と農業の問題をずいぶん考えたことがあるそうです。しかし、どの援助も話や理論ばかりで、成功したものはありません。昨年、英語で書かれた、PMS事業の技術書『緑の大地計画』を手に取り、何度も熟読し、「これがアフガニスタン復興のカギだ」と思ったそうです。普段六時間以上続けて読書をしたことはなかったが、引き込まれて八時間以上をかけて読んだとのことでした。

既にPMS方式の一部は大統領指示で、クナル河流域で行われており、小生らも協力を約しました。小生らの主張のエッセンスも良く理解されており、「実際の経験を以て成功させた」ことが何度も称賛されました。やはり実を重んじ、勇気と実行を美

徳とする古風なパシトゥワンの面影があります。

大統領はどこか高貴な感じがする好々爺こうこうやで、ユーモアのセンスがある方です。「狂った川を愛を以て制したのですな。川から離れられませんな」とも述べられました。

最後に、大統領官邸にはいつでも来てよろしい、何か困ったことがあれば知らせてくれるようにと、秘書官たちにも言いつけ、再会を約してお別れしました。破格の待遇に、ジア先生も喜んでいました。

大統領はPMS方式の普及と

協力を約してくれました

PMS総院長補佐 ジアウルラフマン

中村先生は二〇一九年十月七日にアフガニスタンのアシウラフガニ大統領に招かれ、大統領官邸において大統領自らアフガニスタン・イスラム共和国の市民証を手渡されました。大統領は中村先生と五分間もの長い抱擁で挨拶を交わされたあとの歓談で、「あなたは暴れ川であるクナル河からの取水を可能にして、ナンガラハル州で農地を復旧し、更に拡大した偉大な方で、我

が国民の生活を救ってくれました。ここに我が国の市民証を授与します。私たちはあなた方が苦勞の末に確立したPMS取水方式により、アフガンスタン国の復興に取り組んでいきたい。あなたのご長寿を心からお祈りします」と述べられました。

また、日本国副大使には、「是非、クナール河沿岸でのPMS事業をアフガン政府と共に支援して頂きたい」と話されました。

私、ジアウルラフマンはPMSジャララバード事務所スタッフを代表し、敬愛するペシャワール会支援者の皆さまとペシャワール会事務局のスタッフに心よりお慶び申し上げます。

『緑の大地計画』を熟読し、

称賛したガニ大統領

ペシャワール会会長 村上 優

二〇一九年十月七日にアフガニスタンのガニ大統領から直接、中村医師にアフガニスタン市民証が授与されました。すでに市民証を授与することは四月に決定され通知されていましたが、直接大統領が会って手渡したいという希望があり、同日大統領官

邸で会が催されました。PMSからはジア医師、日本大使館より高橋副大使も招かれて、静かなうちにも和やかな集まり、そしてガニ大統領からは最大の敬意と称賛、そして共感をいただきました。

一九八四年に中村医師がハンセン病撲滅プロジェクトでペシャワール・ミッション病院(当時パキスタン北西辺境州)に赴任した時から三五年がたちます。アフガニスタン・パキスタン国境に避難したアフガン難民との出会いがあり、医療チームを組織してアフガニスタン東部に診療所を建設、それが広がり、二〇〇〇年より顕在化した大干ばつで、薬よりも水を必要としている人々に一六〇〇本の井戸を掘り、命を支えました。二〇〇三年からはマルワリード水路の建設が始まり、活動拠点をアフガニスタンのジャララバードに移し、水事業を軸に農業、植林、医療にわたって、この地域の生活全般を支える構造が作られてきました。

干ばつは地球規模で起こる温暖化の結果であり、世界的に自然が荒々しい姿になりつつある警鐘がこの地に鳴らされています。難民は戦争だけでなく、生活する地域の気候変動による荒廃で生じているということも中村医師は繰り返し訴えています。

水事業の中心にある灌漑技術PMS方

式をまとめた『緑の大地計画』(邦文・英文)をガニ大統領は何度も熟読、「これが復興のカギ」と思ったと、中村医師に話されています。

アフガニスタン市民証の持つ意味は多岐にわたります。中村医師も話されるように「文字通り現地に溶け込んだ活動」になることでしょう。

三五年間この活動を支えていただいたペシャワール会会員の皆様やJICA(国際協力機構)・FAO(国連食糧農業機関)をはじめとする様々な機関の方々と共に喜びたいと思います。

(祝辞)

慈愛に満ちた

全能のアラーの名の下に

ナンガラル州シェイワ郡郡長

モハマッド イスマイル シンワリ

親愛なるアフガン国民と日本の皆様へ。

私よりも皆さんの方がよくご存知だと思いますが、今日までの三〇年に及ぶ年月にわたり、ドクターサーブ中村はここアフガニスタンで働いて来られました。最初は医療の分野で最良の仕事をされ、その後、灌漑事業に着手なさいました。ご存知のように当時のシエ

イワ郡は干ばつで沙漠化しており、農地を耕すにも水がなく、住民は貧困や病気など多くの問題を抱えています。

ドクターサーブ中村は、分水路、貯水池など多様な幅を持つ全長約二五kmのマルワリード用水路を建設しました。この用水路によって、シェイワ郡はアフガニスタンで有数の農業生産地帯の一つになりました。これもドクター中村のお働きのお陰です。

ドクターサーブは、さらにカシコートやベスード郡など他地域にも用水路を建設、これは現在一六、五〇〇ヘクタールの土地に水を供給しています。加えてクナル河の増水による大洪水で破壊されていたカチャラ村、タラーン村、コーティ村などの土地を救ってくださいました。

先日、アフガニスタン・イスラム共和国アシュラフガニ大統領よりドクター中村に市民証が授与されましたが、私はこのことを大変誇りに思っています。ドクター中村は真にこれを受けるに値する方であります。

ドクター中村は我が国アフガニスタンが直面している問題を明確に理解し、クナル河を相手に何をなすべきかを熟知しておられます。アフガニスタン国民、ことにシェイワ郡住民は、ドクターサーブ中村のお働きと貢献をこれからも決して忘れることはないでしょう。

市民証授与後のメッセージ

絶望的な状況の中、人々の希望と国土の回復を目指す

PMS総院長／ペシャワール会現地代表 中村 哲

今回、アフガニスタン大統領から直接、このアフガン名誉国民の地位が与えられました。ペシャワール会＝PMS (Peace Japan Medical Services) は、これで文字通り現地に溶け込んだ活動になります。これは一人小生の活躍ではなく、長年にわたる日本側の良心的支援、現地のアフガン人職員、地域の指導者による協力の成果だと理解します。

それと同時に、私たちが努力を傾けてきた灌漑事業が、この国で重要な意味があることが背景にあります。アフガニスタンは年々農地の乾燥化が進み、農業不振で危機的な状況が生まれつつあります。温暖化による最大の犠牲者の一つがアフガニスタンです。私たちの試みが、この絶望的な状況の中で、多くの人々に希望を与えると共に、少しでも悲劇を緩和し、より大きな規模で国土の回復が行われることを希望します。

2019年10月7日

PMS職員・アフガン政府関係者が来日研修

農具・養蜂・果樹管理など、
朝倉で視察研修

山田堰土地改良区前理事長

徳永哲也

JICA（国際協力機構）の招聘により、福岡県朝倉市で九月十日～十二日に、アフガンスタン政府（農業灌溉牧畜省・水エネルギー省・農村復興開発省）の七名、PMS職員四名、計十一名の視察研修が実施されました。

十日の午前中は歓迎セレモニー。朝倉市長、農林水産省・福岡県・山田堰・ベシャワール会代表者から熱烈的な歓迎挨拶の後、アフガニスタンでの活動に関する中村先生の講義が行われました。

山田堰の研修では、二〇一九年二月に竣工したカマ第一堰が筑後川の山田堰と酷似しており、皆さんが驚かれています。印象的でした。カマ第一堰はクナル河におけるPMS方式の取水堰モデルとして、今

後アフガン各地に普及拡大することが期待されます。

PMS農場二三五ヘクタールの有効活用と生産性向上に向けた取組みの一環として、今回の研修でも戦後間もないころに活躍した日本の「足踏み脱穀機」「唐箕^{とうみ}」を実演し、好評を得ました。農作業効率化のための農具普及拡大についてはPMSで検討されていますが、山田堰土地改良区においても具体的な支援方策について取り組む所存です。

二〇一九年四月に開始したPMS養蜂事業については、すでに巣箱が五〇箱になり、ユーカリの蜂蜜三〇〇キロを採集したとのことです。農場では今後、ビエラやかんきつ類の蜂蜜の一大生産地を目指す取組みが計画されています。朝倉市の藤井養蜂場では具体的な指導を得ました。

また、七年前から植樹している二万五千本のかんきつ類に関する剪定方法など、管理については福岡県農林業総合試験場果樹部の藤島チーム長の指導を得ることができました。特に、高木になるかんきつ類について、低木で収穫しやすい台木を採用することがポイントであるとの助言を得たことは大きな収穫でした。



長年の友人のように再会を喜び合う徳永さんとジア医師
(2019年9月9日)

三日間の研修を通じ、皆さんの熱意ある研修態度を関係者一同称賛していました。

▼未使用の切手、書き損じハガキ（官製ハガキ・年賀ハガキ）をお送り下さい

*引き出しの中などに眠っているものをお送りいただければ幸いです。会報発送等に使用させていただきます。なお、外国の切手は取り扱っておりません。

▼寄付をしてくださる皆さまへ

*当会は法人格を持たない「任意団体」です。お送り下さったご寄付については税金控除の対象となりません。予めご了承頂きますようお願い致します。

「来年また戻つといで！」

(株)テクノ

樋口 孝

ファヒーム技士との出会い

全国のペシャワール会員の皆様、大変ご無沙汰しております。今回二回目の紙面登場で少しばかり緊張していますが、駄文にしばしお付き合いをいただけるとありがたいです。

書きたい事は山ほど有りますが、今回はPMS現地スタッフであるファヒーム技士との三回にわたる研修にスポットを当ててみたいと思います。

彼との出会いは二〇一七年に行われた初の測量研修でのことでした。とてもシャイではありましたが、素直な性格で、慣れない測量機器を一生懸命に覚えようとする姿がとても印象に残りました。

ただ一つ気がかりだったのは、こちらの質問に対して少し怯えというか自信の無さが垣間見えて、このままで大丈夫なのかと心配になりました。

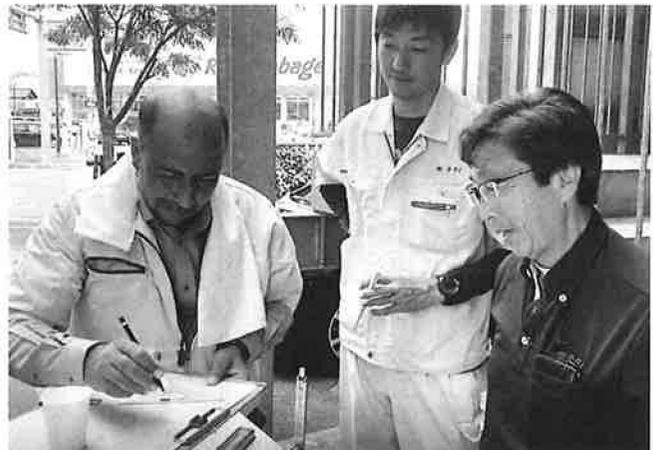
見違えるほどに成長したけれど

それから一年後の二〇一八年秋、彼と測量研修で再会しました。なんと彼は最初から生き生きとした目でこちらに訴えかけてきます。これには少し戸惑いましたが、それが何かは直ぐに理解出来ました。

彼は自国に帰ってから、私たちが教えたことを繰り返し訓練していたようで、その姿を一刻も早く私たちに見せたかったので、正直これには度肝を抜かれました。

わずか一年の間に見違える程に成長しており、こちらが当初予定していた研修内容を大幅に変えなければならぬ程に腕を上げ、私たちの問いかけに対して満面の笑みで答える彼の姿に、その場にいたテクノ社員が皆、尊敬の念すら覚えてしまいました。しかし、そこに落とし穴があったことに僅か三日ほどの研修の最後になって気が付きました。

彼は測量作業の一部しか理解出来ていなかったのです。現場での作業については問題無いのですが、図面を描くことは全く覚えておらず、いくら教えようとしても悲しそうな瞳だけを返してくるのです。その姿は一年前に目にした彼であり、図面を描くことが出来ないまま帰国していったのが昨年のことでした。



テクノ社寺田さん(写真右)、飯塚さん(写真中央)の指導を熱心に聴くファヒーム技士(2019年9月11日)

図面を描かせるには？

そして一年。今年も研修の案内がPMS支援室から来た時には、正直ありがたいたい気持ちで一杯になり、中村先生やPMS支援室の皆様にご無理を強いて、時間が許す限り、ファヒーム技士だけ別行動で測量研修をやらせて貰えるように配慮していただきました。目的はただ一つ、彼に図面を描かせる事。その為には何が必要か、我々テクノに何が出来るかを皆で考えて出て来た答が、アリゲードを使った平板測量です。

中村医師、ガニ大統領よりアフガン市民証を授与!

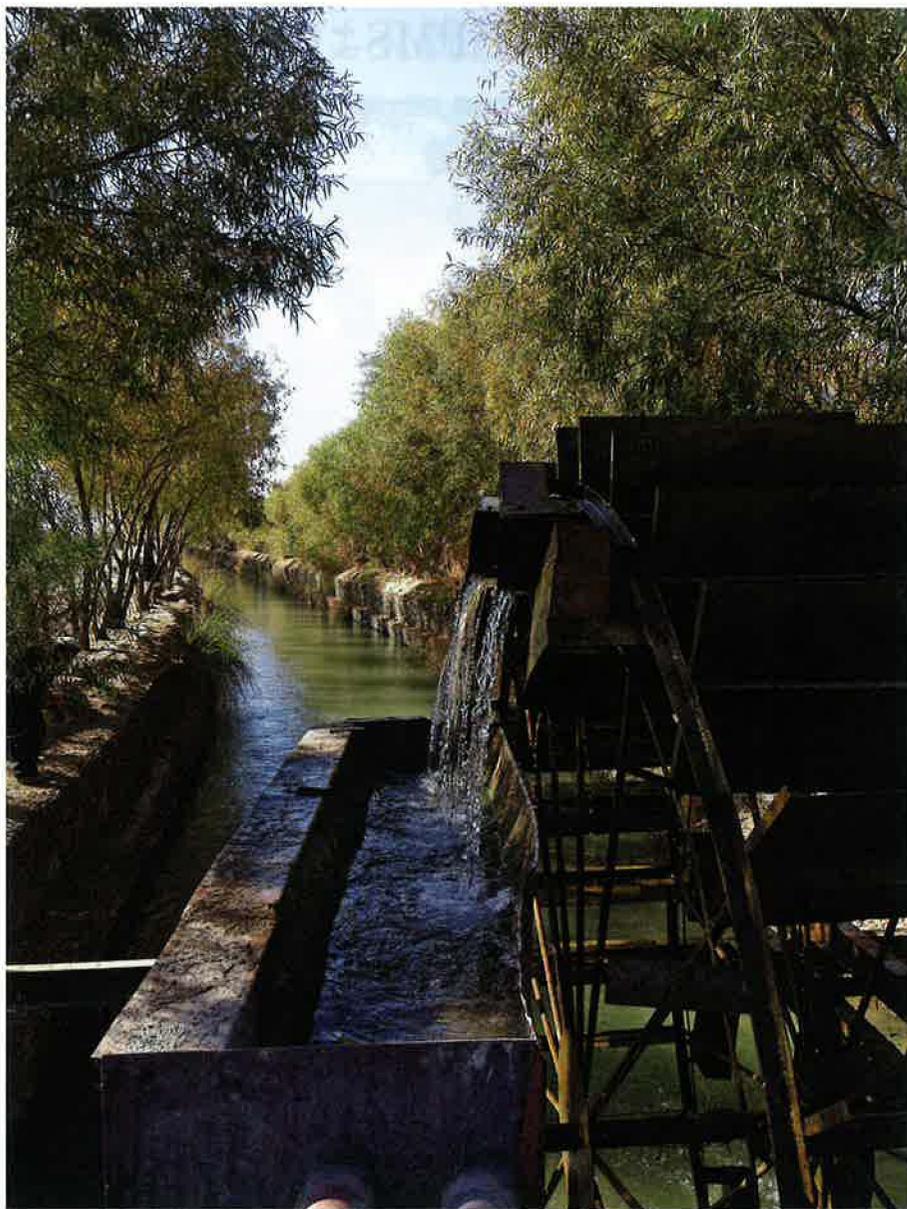
2019年10月7日 首都カブール・大統領官邸にて、ガニ大統領より中村医師へアフガン市民証が授与された。式典は日本国副大使・アフガン政府報道官・PMS院長補佐ジア医師らが列席し、終始和やかな雰囲気で行われた。



ガニ大統領より「アフガニスタン・イスラム共和国市民証」を授与された中村医師



大統領は中村医師と長い抱擁の挨拶を交わした。「狂った川を愛を以て制したのですな。川から離れられませんな。」とユーモアを交えて歓迎し、最大の英雄、最も勇敢な男、と激賞の言葉で称えた。最後に「いつでも官邸に来て、何か困ったことがあれば知らせてくれるように」と述べ、再会を約した。



↑設置後1年を経過したカンレイ村の水車。福岡県朝倉市の水車を元に作られた。毎日1200トン以上の水を汲み上げ、村々を潤している(2014年12月2日)

→水車の設置風景。同地区周辺は高台でマルワリード用水路からの分水ができなかった。水車により水の恩恵を受けて農地が広がった(2013年6月25日)



9月8～15日、アフガン政府省庁・PMSより11名が来日!



↑八木山産こしひかりを使って足踏み脱穀機の実習。現地では稲をドラム缶に打ちつけて脱粒している。今後アフガニスタンでの普及が期待される。

←福岡県農林業総合試験場にてかんきつ類の剪定の実習。PMS農場では今まで剪定していなかったため、質問が止まらなかった。

↓藤井養蜂場にて受講。PMSの養蜂はまだまだ始まったばかり。



アリダード。皆様には聞きなれない言葉でしょうが、端的に言えば古い測量法で、使う機器も古典型的な道具ではありませんが、アリダードは測量作業と図面作成を一連で行うことが出来るのです。今回の研修にはもってこいの機器です。こうして方針は固まりました。

古い測量機器を使うので、講師には測量部長である寺田を中心に皆が名乗りを上げてくれました。が、世の中そんなに上手く行くはずもなく、肝心のアリダードの機材がありません。昨年のも豪雨で当社も浸水被害を受けたため、廃棄処分されてしまいました。無いものは仕方ありませんが、今回の研修にはどうしても必要です。

どうにかならないかと考える日々を過ごしていましたが、ある日ふと閃き、同業者に電話をかけたまくって、他社の倉庫に眠っているアリダードをなんとか二台借りる事が出来ました。これで準備は万端、後は研修のその日を待つのみとなりました。

笑顔と幸せな時間の訪れ

そして迎えた研修の日、見事にファヒーム技士は応えてくれました。三年の月日は彼をここまで成長させてくれました。

研修内容については寺田の寄稿に任せて詳細は省かせていただきますが、研修中のファヒーム技士の一言だけを皆様にご報告

します。

「アリダードもトータルステーションも結局同じじゃない？」

その言葉に、その場にいた私たちテクノ社員は心から笑顔になりました。言った本人も笑顔になり、その場に幸せな時間が訪れました。そこにいた彼はもう昔の彼ではありません。コツコツと毎日同じような作業を繰り返しながらも、しっかりと仕事を熟していく職人がいました。私たちと同じ職人です。国や環境が違うだけで、やっている仕事と同じであるからこそ解り合える同じ感覚を、今の彼は身につけています。や

測量の基本に戻って

(株)テクノ

寺田俊博

試行錯誤の技術研修

私共(株)テクノ(測量部)がJICA主催の技術研修に講師として参加するのは三回目。いずれも、ドローンを使った新しい測量機器の紹介と、地形図(山田堰周辺)の作成を行った。特に、地形図の作成にはアフ

って良かった、本当に良かった。今、改めてそう思います。

最後になりますが、このような機会を三度も与えて下さった全ての方々に深く感謝を申し上げるとともに、自国に帰って行った現地PMS職員の方々に一言、

「来年また戻ついで！」

この紙面にお付き合いただいたペシャワール会員の皆様にも一言、

「皆様のおかげでアフガニスタンに希望の光が芽生えていますよ」

以上、感謝の言葉で締めくくらせていただきます。

ガニスタンの方により理解してもらえよう試行錯誤を繰り返した。

一回目は、

- ・ 基準点の設置
- ・ 機械の据え付け
- ・ 現地のトランシット(測量機器の一種)を使用した観測(角度・距離)
- ・ 観測データのパソコンへの取り込みプロット及び図化

問題点は、観測データをパソコン上でプロットし図化するので、現地での略図(番号図)が正確でなければならず、また、多くのデータを管理するのが大変困難だった。二回目は、アフガニスタンの人達にはまだ馴染みの薄い、次の二つの測量機器を使



今回は最新機器による測量も体験した。ドローンを操縦しているファヒーム技士(2019年9月12日)

用する方法で行った。

①トータルステーション

角度を測るトランシットと測距儀の機能を持ち、水平距離・高低差を計算し表示。

これを無線によりパソコンにデータを送信。

②電子平板(パソコン)

トータルステーションからのデータを受け取り、コンピュータソフトの図形編集機能を利用して三次元地形図を作成。

この測量方法は、観測データがリアルタイムでパソコン上に三次元座標点として表示され、図化編集が出来ることで大変好評でしたが、現地のどの位置を座標化すれば

良いのかの理解が進まなかったことと、現地では二つの機械を準備できないことが問題として残りました。

そこで今回は、三脚の台に平板をのせ、コンパス・アリダード・巻き尺を用いて、測量結果をその場で地形図にしていく、トータルステーション・電子平板の無い時代の測量方法を取りました。

まず、図化する場所の選定。前回までと異なり、構造物の多い彼等の宿泊するホテルの敷地全体とし、本館・立体駐車場及び植え込み等を含む地形図としました。

前回までであれば、すぐに三脚の台に平板をのせアリダードと巻き尺で図面を描き始めるところですが、今回は、現地のどの位置を平板上に落としたら良いのかを理解するためと、出来上りのイメージをつかんでもらうために、簡単な見取り図をフリーハンドで描いてもらいました。

これで準備オッケイ、基準点の上に平板を据え付ける。この作業は当初から何度も行っている機械の据え付けのお陰で早い。

次に、アリダードによる後視の視準、これもトランシットによる観測で問題ない。あとは、前視(簡単な見取り図の折れ点)の視準と距離の測定をし、アリダードの目盛でその距離を落とすだけ。目盛盤は色々な縮尺に変更できる。今回は、五百分の一で作成。あとは、前視の点と点を結び、装飾を

すれば地形図の完成。

いつでもどこでも地形図が描ける

まだまだ残暑の厳しい九月上旬、途中で雨が降りだす中、真剣に説明を聴き熱心に作業を進める現地技士の姿に、こちらも説明に力が入りました。日本ではこの測量方法で地形図を作成したことのあるのは五十歳以上の人で、今ではその道具も無い会社が多いと聞いています。

近年は測量機器も日進月歩で、多種多様な機能が快適に使用できるようになり、光を飛ばせば位置情報は全て得ることが出来ますが、事前に地形図をイメージすること無く無駄に観測点を増やしているように感じますし、バッテリーがなければ何も出来ない技術者も見かけます。

けれども今回のこの測量方法を理解しておけば、どんなに測量機器が進歩しても地形図を描けますし、簡単な図面であれば日用品を代用して作成できると思います。

最後に、アフガニスタンの方々の素直な態度と熱心な眼差しを肌で感じることで、私達テクノの社員も多大な影響を受け、測量の基本に戻ることが出来ました。これを今後の日々の仕事の励みとしていきたいと思っています。

以上、まことに稚拙な文章となりましたが、最後までお読みいただき感謝します。

この経験を未来の世代に

PMS職員・エンジニア
アジュマル スタニクザイ

活発な意見交換と学習

今回、私たちはアフガン政府の代表者たちと日本を訪問しました。その概略は以下の通りです。

二〇一九年九月八日に東京の空港に到着すると、日本の兄弟たちとJICA職員の方達が私たちを歓迎してくれました。信じられないような瞬間でした。と同時に感謝の気持ちで一杯になりました。

九月九日(月)は、JICA本部でJICA

CAとPMS水利方式のガイドライン作成に関する会議のあと、CTII(建設技術インターナショナル)からこのガイドラインに関するレクチャーがありました。

さらに外務省へ表敬訪問、その際、アフガニスタンにおけるPMSの活動についていくつかの質問を受けました。それらを受けて、「我々がPMS方式を採用して取水設備を建設していけば、アフガニスタンの貧困はなくなり、現地は安全になり戦争がなくなり」と答えました。

九月十日(火)、朝倉市主催の歓迎セレモニー。山田堰見学。

九月十一日(水)、朝倉市の藤井養蜂場を訪ね、ミツバチの管理法や蜂蜜になるまでの工程など多くの質問をして、養蜂についてこれまで以上の知識を得ました。その後、稲田を見学しました。

九月十二日(木)、CTIIがガイドライ

ンに掲載する灌漑方式についてのプレゼンテーションを行い、参加者が活発に意見を交換しました。その後、福岡県農林業総合試験場で、果物や穀物の栽培、養鶏などを見学、昔ながらの農具も見せていただきました。その後ミカン園に行き、剪定の方法、病害対策、肥料の使い方など様々な情報を提供して頂き、また私たちの質問に対して丁寧にお答え下さり、ここでも多くの学習をしました。

CTIIの細野さんからは新旧の野菜栽培法や灌漑方式について、その違いや長所を講義して頂きました。私からも、去年細野さんから教えていただいた野菜づくりをガンベリ農園で実施し、少ない水で野菜が栽培出来て利点が多かったことを発表しました。また今回は細野さんから大変有効なサイフォン方式の説明を受けましたので、現地で実施する予定です。

九月十三日(金)、熊本県を訪れ、「鼻ぐり井手」という名の大変歴史のある用水路を見学し、続いて「白川水源」と「菊池溪谷」を訪ねました。どこも素晴らしいところで、鼻ぐり井手は本当によく考えて作られたものだと感銘を受けました。

ひとつのチームのように

福岡では、ペシャワール会事務局のスタッフや支援者の皆さんが、私たちとアフガ

中村哲医師の著作等

アフガン・緑の大地計画

伝統に学ぶ灌漑工法と甦る農業 [改訂版]
Peace (Japan) Medical Services & ペシャワール会
B5判並製・256頁・オールカラー 1700円(税込)

以下はすべて本体価格(税別)です

医者、用水路を拓く

アフガンの大地から世界の虚構に挑む 1800円

ダラエ・ヌールへの道 2000円

ペシャワールにて 1800円

辺境で診る辺境から見る 1800円

医者 井戸を掘る 1800円

医は国境を越えて 2000円

石風社 福岡市中央区渡辺通2-3-24
電話092(714)4838

人は愛するに足り、真心は 信ずるに足る アフガンとの約束

中村哲/澤地久枝(聞き手) 2100円
岩波書店 東京都千代田区一ツ橋2-5-5
電話03(5210)4000

天、共に在り

アフガニスタン 三十年の闘い 1600円
中村哲
NHK出版 東京都渋谷区宇田川町41-1
電話03(3464)7311

アフガニスタン DVD

用水路が運ぶ
恵みと平和
朗読 吉永小百合
2700円
ペシャワール会製作



ン政府三省（農村復興開発省、農業灌漑牧畜省、水エネルギー省）代表者のために歓迎会を開いて頂きました。日本の方達とひとつのチームになったようで、温かく歓待して下さった皆さんに感謝の気持ちで一杯です。またベシヤワール会事務局の方達と、P

水のよもやま話(5)

柳の話

PMS総院長／ベシヤワール会現地代表

中村哲

MSの活動について、話し合いの場も持ちました。
今回の訪日で、私は農具や節水の方法、養蜂の工程、みかんの剪定など色々な情報を吸収することができました。これら全ての情報をガンベリ農場に應用して、この経

験を未来の世代に伝えて行きたいと思えます。このようなプログラムを計画して下さい。JICA、CTII、ベシヤワールの皆様に心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。

我々が用水路建設で行う柳枝工は、すっかり定番となって、柳のない水路は物足りなく思えるほどになった。今年四月、二〇〇三年にはじまる「緑の大地計画」でPMSが行った植樹が一〇〇万本を記録、そのうち六〇万本が柳だ。つきあいても長くなったので、ここで紹介しておきたい。

水辺で元気

たいていの樹木は水に浸かり続けると死ぬ。湿地に木が生えないのはそのためだ。柳は不思議な木で、水腐れを起さず、むしろ水辺で元気がよい。流水からも酸素をとり込む水草のような性質があるからだ。初夏、柳の根方を見ると、岸辺から張り出す

毛根が観察される(写真1)。まるで赤い毛氈のように、鮮やかだ。古くから岸辺の保護に用いられ、日本でも「川端やなぎ」は馴染み深い。日本で一般的なのは「しだれやなぎ」で、幽霊の姿を連想させ、怪談によく登場する。しだれやなぎは中国原産で、奈良時代に渡来して全国に広がったと言われている。実際、日本の地名や人名には柳が頻繁に登場する。

世界に三〇〇種とも言われ、中間種もあるので、実際は分類できないほど多いらしい。日本の在来種はネコヤナギが有名だ。アフガンスタンでは「しだれ」を殆ど見かけず、我々が現地で使用するのは「コリヤナギ」の近縁種と思われ、枝はピンと張っている。



写真1 河辺から出る柳の根(カマ第一堰)

そのせいか、柳にまつわる怪談話はない。柳もおしべとめしべがあり、一応は虫媒花である。但し、雌雄が別々の枝に着く。春三月、芽吹く若葉に混じって、花が観察される(写真2)。ネコヤナギのふっくらした花はおなじみだ。日本のしだれやなぎに雌花がないことは良く知られ、専ら挿し木で広がったらしい。

色彩の魅力——詩歌の柳

鮮やかで柔らかい独特の緑色が印象的で、

昔から詩歌に登場する。万葉集などでも謳われ、中国の古典には、そのまま「柳色」という表現で登場する。春から初夏、たおやかで、かつ夢のように鮮やかな色彩は、何か郷愁を誘い、一度見ると忘れない。

やはらかに 柳あをめる 北上の

崖辺目に見ゆ 泣けとごとくに

石川啄木

これは望郷の詩である。おそらく柳の群落は、どここの里でも見られた故郷の風物でもあったのだろう。

渭城の朝雨 軽塵を浥す

客舎青々 柳色新たなり

君に勧む更に尽せ一杯の酒

西の方陽関を出ずれば故人なからん

「元二の安西に使いを送る」王維

これは唐代の有名な漢詩で、かつて送別会で盛んに謡われた。たいていが酒の席だったから、「一杯の酒」に力が入り、前の「柳色」まで深く想像できなかつた。しかし、アフガニスタンで灌漑の仕事が始めてから、やっとこの詩の情感が理解できるようになった。前の二行がないと、「もう会えない」という後半の切々たる思いは伝わらない。細かい砂漠の塵で覆われる内陸の乾

燥地帯は、時折朝方に霧雨が下る。雨が去ると空気が澄み渡り、木の葉の緑が鮮やかに表れる。特にこの季節の柳の色は目が覚めるように美しい。故郷を偲ばせる情景の中で、遠くへ旅立つ親友を送るのである。

回柳の精・聖なる木

縁起をかつぐ人は、柳を庭に植えない。三途の川など、川の岸辺は昔からこの世とあの世の境界と考えられ、柳がそれを連想させるからだ。幽霊の姿も、しだれ柳から想像されやすい。

柳はそのしなやかさから女性が想像され、柳腰という言葉もある。古くから柳の精が女に化けて男をたぶらかすという話が各地にあるが、必ずしも恐ろしい妖怪ではなく、小泉八雲の怪談の「青柳の話」は、可憐な娘が登場する悲恋の物語だ。

キリスト教では、縁起の良い木として扱われる。切り口から旺盛に新たな枝を出すさまが、復活の象徴として理解されるらしい。福音書のクライマックス、イエスのエルサレム入城の際、民衆が路上にシュロの枝を敷いて迎えたという故事がある。これを記念する「シュロの主日」には、早春に芽吹くネコヤナギが世界中で広く使われている。

回折れない柳の枝

「柳の枝に雪折れなし」というように、新

鮮な柳の枝は、曲げることはできても、決して折れない。中国では弓矢の矢に使われ、日本語のやなぎという言葉も矢に由来する。曲げてもすぐ戻るので、かつて別れの際に柳の枝を手向けるという風習もあったらしい。アフガニスタンでは細い枝を集めて編み、手籠を作る。最近では見かけなくなつたが、日本では柳行李が有名で、古くから旅行や行商の荷物入れとして、今の旅行カバンのように用いられた。

鞭にも使われたらしく、童謡「歌を忘れたカナリア」(西條八十・作詞)に出てくる。その中に、「歌を忘れたカナリアは——柳のムチでぶちましょか」と穏やかでない一節がある。「いえいえ、それはかわいそう——象牙の船に銀の櫂、月夜の海に浮べれば、忘れた歌をおもいだ



↑雄花

雌花一



写真2 ミラン堰用水路沿いの柳



新緑の用水路 (ミラン堰)

す」と続く。子供の頃からこの歌が好きで、この齢になっても覚えてる。叩いたり責めたりしても、人は良くならない。心とむ情景の中に置けばよい。その通りだ。第一美しい柳を鞭に使うなど、よろしくない。

回 河川工法の中の柳 (柳枝工)

ヤナギは岸辺で旺盛に成長して根を張るので、古くから護岸に用いられてきた。我々の現場では、主に用水路壁のふとん籠工と併せて行われる。石の隙間に細かい根が入り込み、生きた籠として石垣の構造を保つ。しかし、クナル河のような急流の自然河川では柳枝工は使えない。主に緩やかな川で用いられる。粗朶沈床は、生きた柳枝で編んだ網を沈めて水辺で根を張らせ、岸辺を守る本格的な伝統工法だ。我々もずい

ぶん試みたが、水位差が激しいクナル河には向かない。そこで、独立したふとん籠周囲に編み込んで叢生させ、河原に多数を埋設、砂州表面の保護に用いた。形が生け花の剣山に似ているので、「剣山粗朶柵」などと称している。その他、河辺の水制間に植え、土留めとして斜面保護に使うことも多い。

回 群落の維持と植樹

条件が良ければ、ヤナギは十メートルを超える大木になるが、寿命は案外短い。昆虫たちには人気の樹の一つで、ガ、ハムシの幼虫が葉を好み、カイガラムシが小枝の樹液を吸い、カミキリムシやゾウムシが幹に穴をあけて棲みつき、産卵する。たいていは共生しているが、古くなると樹に元気がなくなつて、シロアリがつくと枯れることもある。

維持するのは定期的な刈りこみか伐採がよい。切株から盛んにシュート(若い枝)を発し、普通五年以上経った群落なら、二年で完全に回復する。殺虫剤は厳禁だ。ひどい食害でも群落全体がやられることは先ずない。駆除は天敵の鳥やテントウムシに任せ、古くなつたら伐採して新枝に更新するのが一番良い。

植樹は全て挿し木で、適期は晩冬、水やりはバケツによる手作業だ。以前、能率を上げるために水ポンプを使っていたが、活着率は芳しくなかった。十年ほど前、来てい

た梅本ワーカーがバケツの方が確実と言出し、試しに実行したところ、活着率九九%という驚くべき結果が出て、以来それを採用している。幼木は手作業で大事に扱う方がよく、ポンプでは土が洗い流され、木が固定しにくいと考えられる。

最近では、作業員が更に考えて、補水を工夫した「挿し木床」が大成功、季節を問わず、いつでも植えられるようになった。限られた工期では画期的なことである。

こうしてヤナギは最も身近な植物となり、作業地内の至る所で柳の群落が見られるようになった。PMSの用水路工、排水路工、護岸工、法面工には必ず柳の群落があり、その長さを合計すると優に百キロを超えるだろう。

至る所で、美しい緑が道行く人たちの心を和ませます。着工以来六〇万本、柳の精たちが多数現れることを待ち望んでいる。

▼ 現地活動を紹介するパンフレットをお送りします

*ペシャワール会の活動をご紹介されるときにお使いいただけるものです(払込用紙がついていきます)。ご希望の方は遠慮なく事務局にお申し越し下さい。パンフレットはA3変形を四折りしたもので、長形の定形封筒に入るカラー版です。なお、パンフレット、会報等は受け取る意思のある方への配布を原則としております。(ポスティング等は御遠慮下さい)

— 追悼 —

緒方貞子さんの思い出

中村 哲

緒方貞子さんは最も親近感を覚えてきた大先輩の一人です。国連難民高等弁務官時代はペシャワールのアフガン難民キャンプで、JICA理事長時代はアフガン復興をめぐる、ジャララバードや東京で何度もお話をする機会に恵まれました。

我々が二〇〇三年以来行っている灌漑事業、「緑の大地計画」についても強力な支持者で、陰に陽に声援を惜しまれませんでした。用水路が要所を開通した時は必ず祝電が届き、職を退かれたのちもその後の様子を気にかけておられました。二〇一〇年から八年間続いたJICA IIP MS共同事業では取水堰の技術的完成を目指すものですが、緒方さんの背後からの支えが大きくなりました。

氏は理念の人道・平和主義者ではなく、その主張する「人間の安全」が光彩を放つのは、現場で話ができる方だからでした。

表紙写真によせて

用水路工事現場での朝食

今朝も母親から受け取った朝食を、子ども達が用水路現場近くのテントにいる父親や兄に届ける。厳寒の冬の夜でも変わりなく資機材を管理する彼らがいなければ、工事は難しい。

用水路建設の現場すぐ傍には蛇籠^{じやかご}の網や、レンガ、セメント、鉄筋の他にも、スコップやコテ、一輪車など、資機材の置き場としてテントが張られる。

近くの村人が見張り番として、工事が終わるまでテントで寝起きし、任務を果たしているのである。

テント脇の即席^{かまど}の竈でチャイをつくって、母親から預かった布切れを地面に広げると、タンドゥーリで焼いたばかりの香ばしいナン。アツアツを届けるために子ども達は走ってきたようだ。束の間の静かな時。皆でチャイにたっぷり砂糖をいれてナンを浸して食べる。質素な食卓に暖かな一日の始まりとおだやかな空気を感ずる。

【PMSの動き】

- 10月5日 マルワリード堰大改修(4年計画)が始まりました。
- 10月7日 アフガニスタンのガニ大統領より中村医師へ市民証が授与されました。
- 10月16日 ゴレーク村の第1回予備調査が行われました。
- 10月26日 カマ第一堰改修工事を開始しました。
- 11月30日 2019年のFAO関連事業であるPMS取水方式の研修が終了しました。

その言動は常に实际的、行動的でありました。「国際貢献」という抽象論を嫌い、「置かれた位置が国際環境そのもの」ととらえ、そこから可能性と責任を問うという一貫した姿勢で、多くの人々を励ましてきました。温かい大きな火が消えた気がしています。天にある御霊の平安を心からお祈り申し上げます。(「カトリック新聞」二〇一九年十一月十日掲載に加筆)

●事務局だより

*今年も各地で台風や洪水の被害が相次ぎました。被災された皆様には、謹んでお見舞い申し上げますとともに、一日も早く以前の生活に戻れますよう、心からお祈り申し上げます。

*中村哲医師の「アフガンニスタン市民証」授与は、現地ジャラバードでも待望の慶事だったようで、お祭り騒ぎの様相を呈していたそうです。会員の皆様からお祝いの言葉が多数寄せられました。「長年のご尽力が報われましたね。本当によかった!でも、三〇年って長すぎ。もっと早くてもよかったです。」などなど。

*緒方貞子さんが二〇一九年十月二二日に逝去されました。緒方さんは国連難民高等弁務官、アフガンニスタン支援日本政府特別代表などを務められ、二〇〇三年にJICA(国際協力機構)理事長に就任されました(二〇一三年まで)。PMSとJICAとの共同事業は、中村医師が記されているように、二〇一〇年から八年間続き、カマII、カシコート、ミラーン、マルワリードII(カチャラ)の各堰が建設されました。

緒方さんは「気候変動と地球温暖化の加速は大規模災害や重病の流行、さらには紛争さえも誘発し、すでに脆弱な環境で暮らす人々に不当に大きな影響を及ぼしています。連帯によって、暮らしやすい地球を将来の世代に引き継いでゆけるのかどうか、私たちの能力が試されているのです」(国連広報センター「人間の安全保障を求めて」より)と述べておられました。JICAの皆様には、その後も多大なご協力をいただいております、今回のPMS現地スタッフ他の日本での研修はJICAの招聘によるものです。関係各位に厚くお礼を申し上げます。

*毎年作成しておりますカレンダーは、甲斐大策

画伯ご逝去により、今年も作成を断念いたしました。お報せが遅くなり申し訳ございません。

来年が平穏で明るい年でありませうように、皆様のご清祥をお祈りいたします。

●PMS支援室より

*九月中旬、アフガン政府省庁の方々と共に、PMS職員が来日致しました。治安情勢が芳しくない今、現地職員と直接会える唯一の機会です。私たちはバシトゥ語で会話し、その陽気さと親しみを肌で感じました。

山には木が生い茂り、小川が流れる。そんな何気ない移動中の風景でも「日本は美しい。天国のような国だ」と形容する彼らの感性に、「自然がある幸せ」を気づかされました。また、彼らと研修の間を縫い、一緒に土産を探す時間は良い息抜きです。治安が良くなり、彼らの国でも共に土産を探せる日が来ることを楽しみにしております。

大阪◎村から

*「こんなこととしてられない。何かしなければ」それが六月二九日のBS-TBSの番組「人生の詩」を観た直後の想いでした。写真展を開きたいと数人に呼び掛けると、全員大乗り気。取り敢えず会場探し。本来は大阪市民の作品を展示する場であるギャラリーに展示可能か否か尋ねに行きました。幸運にもその日(七月一日)は十月の使用申込み日!競合にも、初めての目的外使用にも関わらず全てOK。七府県から来場者一九八名(記名者)、恐る恐る設置した募金箱には一二六、二二三円。そして、それ以上に私達の胸を熱くしたのは、写真の前で立ち尽くす若者、会報を見た遠方から駆けつけてくれた方、教えてくれて有り難うと涙ぐむ方々の姿でした。来年こそ何とか講演会を開きたい。多くの方が先生を待っているのだから。(C・M)

会 則

- ①本会の名称をベシャワール会とする。
- ②本会は、中村哲医師のパキスタン北西辺境州(現バクトゥンクワ州)ならびにアフガンニスタンでの医療活動などを支援し、必要な広報・募金活動とともにワーカーの派遣を行うことを目的とする。
- ③本会は、思想・信条にとらわれず、「支え合い」の精神で一致して会を運営する。
- ④会員は年額三、〇〇〇円、学生会員一、〇〇〇円、維持会員一〇、〇〇〇円の年会費を納入する。
- ⑤会員はそれぞれ可能な範囲で、自ら創意工夫して自由なやり方で支援活動を行う。
- ⑥本会は会報を発行し、会報を通じて活動を報告する。
- ⑦本会は若干名の理事、監事を選任し、会の運営を行う。
- ⑧毎年一回総会を開き、事業および会計について報告する。
- ⑨本会の事務局を

〒八二〇〇〇三 福岡市中央区春吉一―一六―八 VEGA天神南六〇―一
TEL〇九二―七三―一―二三七二内におく。

二〇二〇年の総会、現地報告会は、六月二七日(土曜日)に開催いたします。